



From
HAWAII

Kids Hurt Too Hawaii の子どもたち

今年1月に高井さんが訪れた、ハワイ・ホノルルにあるKids Hurt Too Hawaiiでは、子どもたちの笑顔がはじけていました。一緒に食事をしたり、時には海でとサーフィンしたり屋外での活動もさかんです。様々な事情でママやパパと一緒に過ごせなくなった子どもたちが「ここでは安心していいんだ」と自分の気持ちや思いを出せる場です。

そういろいろなアクティビティにチャレンジしている。

高井さん ヒロさんにお話を聞くと、最初は親を亡くした悲しみの中に自分の心もずっと置いたままの子どもがほとんどなんだそうです。KHTHにきて、みんなで集まって食事したり、絵を描いたり、同じような境遇の子どもたちと一緒に好きなことをしながら、時間を過ごす。それ自体がグリーフケアにつながるのだそうです。何かを大人が押しつけるのではなく、子どもがしたいことをしながら、急にはなく、少しずつ自分を出していけばいい、そんな安心できる環境を子どもに提供するのがです。

明石さん そういった環境で、だんだんと自分の気持ちを開いていくことができるようになりました。

高井さん ずっと笑顔が出なかった子が、屋外活動をしている時のふとした瞬間に1年ぶりに笑ったのだそうです。シンシアさんたちは、そんな場面を見ると、こういった活動をもっともつと続けていこうと思う。私たちもそんな環境づくりをしていきたいですね。

子育て中の ママ・パパにも 関心を持ってほしい

明石さん 子育てでただ中だと、何かしようと思っても時間もつくるのができないかもしれない。でも、エイムスの活動を知ってほしい、興味を持ってくれたらありがたいです。

高井さん 6月の下旬にKHTHから講師を招いて、「エイムスファシリテーター養成講座」を開催します。2日間の特別プログラムで、子どものグリーフケアに携わるための専門的な知識とノウハウを学ぶ内容です。これをスタートとして、今後は、子どもたちのグリーフケアに向けた具体的な活動をはじめていく予定です。ご関心のある方はホームページをご覧ください。嬉しいですね。

三浦さん エイムスの活動を紹介する無料のメールマガジンも発行しています。また笑顔が弾けるようになる子どもが増えるよう、賛同いただける方がどんどん増えるとうれしいです。



AIMS創立者 小林真理子さんの “ある想い”がきっかけで スタートしました



AIMSの活動パンフレット

AIMSは、現代表の高井さんのお姉さまである故・小林真理子さん（元NHKアナウンサー）の強い想いがもとになりスタートしたものです。2011年、43歳という若さで小林さんはこの世を去られました。風邪もひかない元気な体質、とご本人も思っていたら、気付かされた時には胃がんのステージIV、卵巣にも腹膜にも転移していると、余命を告げられました。「自分のことはすぐに受け止められただけで、何より心配だったのが幼い娘のこと、その心でした」と生前の小林さんは記しています。幼くまで十分に自分の思いを周囲に伝えられない娘の心のケアはどうしたらいいのか——調べていくと日本にはそのようなケアやサポートを中心に行っている組織がなかったのです。「ならば、私が創ろう」母としての大きな想いが、AIMSの設立の第一歩なのです。



娘さんが赤ちゃんだった頃の
小林さん。



AIMS エイムス

〒101-0024 東京都千代田区神田和泉町1-9-6 浜田ビル4F

特定非営利活動法人AIMS

2011年8月設立

2012年4月特定非営利活動法人として登記

創立者：小林 真理子 - 故人 -

顧問：浅利 慶太（劇団四季代表）
井上 孝代（明治学院大学心理学部長 臨床心理士）
上田 紀行（東京工業大学准教授 文化人類学者）
漆 紫穂子（品川女子学院校長）
鎌田 實（諏訪中央病院名誉院長）
川井 郁子（ヴァイオリニスト）
川越 厚（医療法人社団バリアン理事長）
野島 直樹（NHK交響楽団前理事長）

代表：高井 伸太郎

事務局長：小林 孝雄

理事：明石 由紀子

池上 三六

上野 雄介

Aki Shelton

三浦 建太郎

監事：唐津 真美（骨董通り法律事務所 弁護士）

（敬称略・五十音順）

ミキハウスはAIMSの活動に賛同しています。

■AIMSメールマガジン(無料)のご案内 <http://www.aims-japan.org/>

AIMSでは、メールアドレスをご登録いただいた皆さんに、活動の報告をはじめ、講演会・セミナー・勉強会等のイベントのご案内、プロジェクトに応じて、お手伝いいただけるスタッフやボランティアの募集情報などを、メールマガジンの形でお届けいたします。（発行不定期）AIMSの活動にご興味のある皆様は、是非ご登録ください。（ホームページからアドレスを送信、無料です）

■AIMSに関するお問い合わせ

お問い合わせはメールにてお願いいたします。随時返信させていただきます。
info@aims-japan.org



子どもたちに笑顔が弾ける瞬間を —— 私たちができること

まだまだ幼いころに、ママやパパが癌や病気で亡くなってしまった子どもたちがいます。大好きなママやパパとのお別れは、子どもたちにとっても、周囲の人間にとってもとてもつらく悲しいこと。そんな子どもたちを、再び笑顔が去り戻せるように支えていこうと活動されている「AIMS」の皆さんにお話を聞きました。

【取材・文●新里陽子 撮影●宮川 久 イラスト●いしいゆき】

子どもたちを サポートする場を つくりたい



AIMS代表 高井伸太郎さん

高井さん エイムスのスタートは、私の姉小林真理子の、娘に対する想いから（※別記参照）なのですが、親を癌や病気で亡くした子どもたちの心のケアという点で、日本ではそもそもそのような活動が少なく、また病院などに属さないオープンな団体がなかったことなんです。ないのなら、私たちが組織つくりをしていこうと立ち上がってくれた仲間と、賛同してくださった顧問の方たちで動き出したところです。

三浦さん 私は創立者の小林真理子さんは大学時代からの友人なのですが、小林さんからこの話を聞いた時、何か一緒にできないかと思っただけです。

家族や親しい友人など、大事な人が亡くなった時の死に関する悲しみのケアというのは、海外では進んでいて、グリーフケアと呼ばれています。そこで、私たちは、自分の気持ちをまだ周りに思い通りに伝えられない子どもたちのグリーフケアというものをまず始めようと。そして、さらに、子どもたちと「長期的に一緒に育っていく」というのが私たちの目指している活動です。

高井さん 「子どもの心のケア」は姉が一番気にかけていたことで、我々の活動の基礎だと思っています。その上で、長期的に子どもの成長のためのサポートをしていきたい

と思います。例えば、成長するにつれて、親はお子さんに関するいろいろな文化的なことにも触れてほしいと機会をつくりますよね。例えば音楽会に行くと、生の音楽に触れる。こういう体験をする場が、親を亡くしたお子さんはぐんと減ってしまうと思うのです。

同じ母として考えた 「できること」 があるはず

明石さん 私は創立者の小林真理子さんと、中・高・大学と一緒に友人でした。私には2歳の娘がいるのですが、先輩ママの真理子には出産前からいろいろな相談ののつてもらっていたんです。

高井さん よく親子同士4人で会っていたよね。

明石さん そう。4人で一緒にいて、母として、彼女がどんなにわが子を愛おしんでいるかが、よくわかりましたし、私自身も母になって、子どもの存在の計り知れない大きさを実感していました。彼女が、自分のような境遇になった親子の心のケアをサポートできる仕組みをつくりたいと、病床の中で話してくれ



理事 明石由紀子さん

た時に、仕事と育児で、どれだけ自分に時間とれるのかとも思ったのですが、私にできることがわずかもあれば、と一緒に動き始めたんです。



理事 三浦建太郎さん

ハワイにはすでにある 子どもが笑える 環境つくり

高井さん 私たちがこんなふうに活動していきたいな、と目標にしている団体があるんです。それはオレゴン・ポートランドにある「Dougly Center」と、ハワイ・ホノルルにある「Kids Hurt Too Hawaii」(以下「KHTH」)。このうち、KHTHは今年のはじめに実際に訪問しました。

KHTHは11年前にハワイで始まった、様々な理由で親と一緒にいられない状況にある子どもたちや、悲しみ、トラウマを抱えている子どもたちをサポートしている

NPO団体なのですが、その運営者であるシンシアさんとヒロさんに聞いたお話は、「日本にもこういうサポートができたらいいな」というものばかりでした。

三浦さん 僕も、見せてもらった写真を見て自然と笑顔になりました。子どもたちが実に楽し